

受領 令和3年5月24日 0時2分

通告番号 (8) 1/2

令和3年5月24日

読谷村議会

議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員

城間 真弓 印

一般質問通告書

第508回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 村民に待ったなし!!命や暮らしを守る本気の新型コロナウイルス感染症対策とは。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症が国民に影響を与え始めてから、2年目の夏をむかえようとしている。今も尚、社会状況は悪化の一途をたどり、4度目の緊急事態宣言の真っ只中である。長引く非常事態に、村民の皆さんや多くの事業者の皆さんは待ったなしの生活に追い込まれており、命や暮らしを守るための対策は急務とされる。国・県の事業とは別に、村独自の支援施策等はどう考えているか。</p> <p>(2) 今年の3月に販売が行われたプレミアム商品券（よみペイ）の販売において、村民の皆さんからかなり多くの指摘を受けた。村として、今後の取り組みに活かすために、どのような問題や課題等があったのか、把握している範囲で答弁を求めます。</p> <p>(3) よみペイ事業に関して総予算額とその予算が何に、どこに、いくら配分されているのかという内訳と今後の電子システムの活用について。</p> <p>(4) コロナワクチン接種の予約の取りづらさについて高齢者の皆さんからどうにかして欲しいとの声が寄せられた。電話予約とLINE予約の割合は？また、独居老人や障がいを抱えた方々への対応は。</p> <p>(5) 生活保護の申請数について、令和元年～令和3年度の件数と、村として今後の動向をどうみるか。</p> <p>(6) 困窮世帯に対する支援策について、本来なら支援が必要とさ</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>れる方々にプレミアム商品券を優先的に3千円分ずつでも支援するという議論や案はなかったのか。また、今後の困窮世帯へのコロナ対策支援策等の考えは。</p>	
<p>2 本当に必要な貧困対策支援とは？誰もが安心して暮らせる村づくりを共に考える。</p> <p>(1) 子どもの貧困対策事業の5月現在の進捗状況と今年度の自立支援プロジェクトの利用人数。(5月末現在)</p> <p>(2) 本村の自立支援プロジェクトを利用できる対象者の基準、または指標とは。また、村が支援の対象とみなして保護者へ声をかけた場合、どのくらいの割合でこの事業につながっているのか。</p> <p>(3) 今現在行われている本村の事業において、昨年12月議会の答弁で県内のある機関から「長くダラダラと子どもに食事を与えるだけでは、なかなかそこから抜け出せない事実があるとし、本村の事業が3ヵ月という期限を区切って目標設定を行うのは素晴らしい！」との高評価があったとのことでした。どの機関から評価を頂いたのか。</p> <p>(4) 沖縄県の実態調査でも明らかにされましたが、貧困が深刻な家庭ほどソーシャルキャピタルが欠如しており、人間関係や社会とつながりにくく「助けて」と言えない村民の方々のセーフティネットをどうつくっていくか。</p>	
<p>3 「子どもの権利」や「人権」の視点から見る学校の校則の在り方について。</p> <p>(1) 本村の小・中学校について、保護者から改善を求められた校則はあるか。あれば、その内容と学校側の対応とは？</p> <p>(2) 新聞やメディアでも大きく取り上げられるようになった「ブラック校則」または「行きすぎた校則」と世論が動き始めたことに対し、村としての見解は。</p> <p>(3) 子どもや保護者に対し、意識調査(アンケート)が必須であり、急務と考える。村としての対応や対策は。</p> <p>(4) 「子ども権利」や「人権」という立場から本村の校則や学校内の課題等を共有し、より良い教育環境をつくるため生徒や保護者を交えた意見交換の場も必要だと考えるが、村としての方針は。</p>	